弓削皇子に献る歌三首

一七〇一番

さ夜中と　夜はふけぬらし　雁が音の　聞こゆる
空を　月渡る見ゆ

一七〇二番

妹があたり　繁き雁が音　夕霧に　来鳴きて過ぎ
ぬ　すべなきまでに

一七〇三番

雲隠り　雁鳴く時は　秋山の　黄葉片待つ　時は
過ぐれど